**答**　29年5月31日現在の積立金は5億3633万9千円である。

30年度に国保広域化が実施されるが、税率改正を行うことなく基金を活用して措置したいと考えている。

## 第3専門委員会

第3専門委員会では、経済産業部が担当する分野から「就労対策」「観光振興」に関する事業を、都市整備部が担当する分野から「河川対策」を重点に審査しました。

**★一般会計　歳出**

**問　地域職業相談室における相談内容は。**

**答**　新規登録件数が3238件、相談件数が1万5540件あったが、内容は個人プライバシーの関係で公表されていない。

**問　農業経営指導マネージャーは1名体制で十分成果があったのか。**

**答**　26年度から1名体制で行ってきたが、概ね支障はなかった。

**問　チャグチャグ馬コの入込客数が前年度比4千人の減の原因は。**

**答**　昨年は国体のリハーサル大会がチャグチャグ馬コの行進日と重なり、宿泊先が取れなかったためと分析している。

**問　JR小岩井駅活性化事業の進ちょく状況は。**

**答**　駅前広場の整備についてJRと協議中であり、次年度以降の事業に向けて取り組んで行く。

**問　市道等維持管理事業で市民からの要望等の達成状況は。**

**答**　要望等の件数615件に対して、直営による作業を含んで実施したものが508件である。

**問　河川管理対象の選考基準は。**

**答**　市が管理している河川は、水路等を含めて全部が修繕の対象になっている。

### ④総括的審査

各専門委員会での審査を受けて、予算決算常任委員会全体で総括的質疑を行いました。

総括的質疑は、市当局の「部」単位で行った専門委員会の審査とは異なり、複数の政策（部）等にまたがる広い視点での質疑を通し、市政全体の課題等を意識して決算を審査するものです。

質疑及び答弁の内容の一部をご紹介します。

**●一般会計**

**問　行政改革により職員の意識改革はどのように図られたか。**

**答**　経営品質の研修を通した考え方の継承や、職員のモチベーションを上げるために人事評価を行っている。

**問　被災地に派遣されている市職員の労働実態の把握は。**

**答**　宮古市と山田町にそれぞれ1名を派遣しているが、定期的な業務報告により実態把握を行っている。

**問　公共交通が本市の観光にどれだけ貢献したと評価するか。**

**答**　一般の路線バスに加えて、祭りの期間中に臨時運行を行い貢献していただいている。

**●国民健康保険特別会計**

**問　基金を含めて4億1300万円の大きな黒字の要因は。**

**答**　高額薬価の改定による給付費の減、後期高齢者支援金と介護納付金の精算による戻入が要因である。

**●下水道事業会計**

**問　バランスシートに移行したことに伴い、決算をどう捉えているか。**

**答**　キャッシュフロー計算書の結果分析では、営業活動が順調かつ借入残高を減らしながら建設と投資が行われ、比較的安定した経営状況を示している。

### ⑤討論（抜粋）

採決の前に、賛成または反対の立場を表明し討論を行いました。

**●一般会計**

**【反対】**

**日本共産党　仲田孝行**

28年度当初予算は174億5千万円と前年度予算比30億円減の規模でしたが、前年度収入未済額約9億円の国庫支出金が順当に手当てされたり、また市債が11億5千万円から25億8千万円へと増額される中で、前年度比6億9千万円増の205億6千万円の歳入となっています。

歳入のうち、自主財源の構成比率は36・5%と前年度比0・9ポイント減で、より硬直化した財政構造となっています。

このことは、本市の独自の施策が打ち出しにくくなっており、この間続いた投資的経費の増額が地方自治の本旨、すなわち住民の暮らし、福祉を守るという施策をさらに打ち出しにくいものにしています。

市債が前期比5億円増となり、市債残高は175億円とピークの15年度の182億円に近付いている状況です。市民の借金をこれ以上増やしてはなりません。

滝沢中央小学校の建設など市民の理解を得ながら進める事業もあることから、今後のさまざまなコスト削減の検証が待たれています。

第1次滝沢市総合計画前期基本計画のスタートとなる28年度決算ですが、市民満足度の高いものとは到底言えるものではありません。市民の暮らしに寄り添った安全・安心の滝沢市をつくることができる今後の予算策定を求め、28年度決算に反対することを表明し、反対討論とします。

**●国民健康保険特別会計**

**【反対】**

**日本共産党　桜井博義**

歳入総額61億5512万円、前年対比で1億339万円のマイナスとなり、率にして1・7ポイントの減になっています。市民が納める保険税、国からの支出金の減額が大きいと思います。

歳出では、総額58億7202万円、これも前年対比で2億4167万円の大幅な減額で、率では4ポイントになっており、主に保険給付費、後期高齢者支援金、介護給付費が前年より減額になっています。

このことからも、歳入歳出の差額約2億8千万円を繰り越し、基金に1億3300万円積み、一方で6千万円を繰り入れていますから、結果的に3億5千万円余の黒字になっています。前年度も4億円ありましたから繰り越し分まで入れると7億5千万円になり、さらに今回の補正予算でも2億円ほど基金に回しています。

決算では、伸び続ける医療費がわずかですが、減少に転じたのは被保険者あるいは予防に力を注いだ努力の表われであることから、その分をしっかりと被保険者に還元すべきと考えます。

税負担が大きい低所得者層は、法定減免の見直し等で幾分納めやすくなったとはいえ、それでもなお支払いが滞り、分納納入、滞納処分につながっています。

このことから、基金に貯め込むのではなく、少しでも独自の減免や引き下げをすることが実施できたのではないかと申し上げ反対討論とします。

## ① 現地調査

現地確認が必要な事業を抽出し、実際に現地に赴き審査の参考としました。

### 簡易水道取水施設

**○事業名**
簡易水道整備事業

**○事業の目的**
老朽化施設の更新、耐震化、適正水圧の確保等を推進し、より安全で安定した水道水の供給をめざす。

**○事業費**
844,154 千円

### 滝沢リサイクルセンター

**○事業名**
滝沢・雫石環境組合負担金

**○事業の目的**
滝沢市と雫石町で構成する環境組合において、廃棄物の適正処理を図る。

**○事業費**
1,054,285 千円

### 砂込川支線排水路

**○事業名**
砂込川支線排水路整備事業

**○事業の目的**
岩手山中演習場を起点として流出する泥水の増加、河川の越水等に対応するため河川を整備し、災害に強い河川の実現を図る。

**○事業費**
104,751 千円

# 所管事務調査報告

## 学校教育施設等の整備について
### 総務教育常任委員会

**児童生徒が良好な教育環境で学校生活を送ることが出来ているかを検証するため、既存の施設や設備が適切に維持管理されているか、また、備品などが適切に整備されているか調査を行いました。**

【報告の概要】

本市の学校教育施設は、建設時期も多様で相当数の年数が経過した施設もあり、老朽化による大規模改修や情報化時代に適した環境整備などの懸案事項を抱えている。

児童生徒等が1日の大半を過ごす学習・生活等の場であり、災害時には地域住民の避難場所でもあることから、施設の建て替えや維持補修などの必要な整備を行い、安全で豊かな教育環境を確保することが最重要である。

本市の子どもたちのより良い教育環境に資するため、次の点を市の最優先課題として解決に向けた取り組みが必要である。

①子どもたちが過ごす学校施設の安全確保と地域防災拠点の観点から、老朽化が進んでいる施設を最優先に整備すること。

②施設の建築年度、立地条件等を考慮し、長寿命化改良や大規模改修を実施するとともに、小規模修繕を実施し、劣化が軽微なうちに施設を整備すること。

③学校規模に合った適正な施設設備を整備すること。

④ICT化を進め、学校図書の管理、個人情報保護の観点からも教員用のパソコン等を整備すること。

▶学校図書室の視察

## 放課後児童クラブについて
### 環境厚生常任委員会

**市内の大規模な放課後児童クラブでは定員超過が例年発生しており、課題解決に向けた取り組みが必要です。さらには関連団体との懇談において、さまざまな課題が混在していることが判明したため、課題の解決に向けた調査研究を行いました。**

【報告の概要】

本市の放課後児童健全育成事業については、過去にも複数回にわたり当委員会でも調査してきた。特に父母会が運営する学童クラブに関して課題が指摘されるとともに、この団体に対して市が主体的に運営の統一化や組織の自立に向けた指導を行うべきとの提言がなされている。

しかし、調査を行う中で、事業費の不足等の理由により現在の事業に反映されているとは思えない状況が見えてきた。

今回の先進地（千葉県松戸市・長野県松本市）の視察では、その現状と組織の在り方など、学童クラブのみならず、子どもの居場所として、0歳から18歳までを対象とした福祉部・教育委員会からなるワンストップ窓口の子ども部を置き、行政が積極的に関与し、運営母体を法人に限るなど運営の統一化、サービスの平準化を図っていた。

また、保護者からの苦情もこども部を通して対処していたことが確認できた。

さらに児童センターの中に学童クラブを置き、放課後児童健全育成事業、一時預かり事業、青少年の居場所づくりなどを指導要員が兼務し、世代間交流も行っている先進事例を視察し、これらが実現できる体制として本市でもワンストップ窓口の設置など、さらなる調査研究が必要と考える。

また、「父母会」主体による運営への現在の支援体制から、一歩踏み込んだ統一的な事業運営の見直しを図る法人化や、法人間及び法人と行政との連携を目的とした組織づくりなどに向けた支援の必要性を強く感じた。

子どもたちの毎日の生活にふさわしい専用施設と設備、子どもの命と生活を守る専任指導員の配置、保育内容の質の向上、それを保障するための処遇改善など、子どもたちが利用する施設によって格差を感じることのないように、父母会と法人に対する運営格差解消に向け、市としても財政面や管理指導など統一した支援を行うべきである。

▶市学童保育連絡協議会との懇談会

## 道路整備と維持管理について
### 産業建設常任委員会

**毎日の暮らしに利用している道路は重要な生活基盤であり、市民から多くの改善要望が出されています。そうした中で28年6月に「道路整備状況について」の調査報告書をまとめましたが、その後の道路整備状況を確認するために調査を行いました。**

【報告の概要】

当委員会では、28年6月に道路整備状況について調査報告書を議長に提出したが、その後の実施状況を把握するため地域ニーズの高い歩道、交差点を中心に追跡調査を実施した。

その結果、次の箇所について整備・改修等を推進する必要がある。

①主要地方道盛岡環状線「滝沢ふるさと交流館付近の交差点」の改良について、引き続き岩手県及び盛岡西警察署に強く要望すること。

②「滝沢南中学校入口付近」の盛岡環状線も車道の幅員が狭く急カーブになっていることから改良すること。

③「牧野林工区1号幹線」は、すずの音保育園前の道路は一部拡幅されているが、保育園の北側の拡幅整備について自治会と現状や課題について意見交換を進めること。

④あすみ野団地から滝沢小・中学校への「第1湯舟沢線」は当面、全線にし字溝を設置するなどして幅員を拡幅し、歩行者や自転車が通行しやすいように対策を講ずること。

## 空き家対策について
### 産業建設常任委員会

**管理が不十分な空き家は、防犯・景観等の面から地域の安全安心を損ないます。良好な住環境の形成のため、空き家の適正管理を促す取り組みについて調査を行いました。**

【報告の概要】

本市の空き家対策は、全国的に空き家問題がクローズアップされている中、27年3月にプロジェクトチームを立ち上げ、取り組みを始めた。

これまで「空き家相談対応マニュアルの作成」「問い合わせに対応する現地確認」「必要に応じて所有者等への情報提供」などを実施してきたものの問題解決のための総合的な対策は、必ずしも整備されている状況ではなかった。

今後の対策については、所有者への情報提供や意向把握による適切な助言を行い、空き家の有効利用等を進める必要がある。

現在、プロジェクトチームの他に健康福祉部局とも連携し対策を進めているが、住民動向を把握する部署とも密接に情報共有や対策を検討していく必要がある。

また、所有者が「空き家」を「優良な中古物件」に修繕して、若い世代や新規就農者などの移住希望者への受け皿となる「空き家バンク」のシステム構築について研究する必要がある。

さらには「空き家等対策計画」を早期に策定し、計画の実施に関する協議を行う場として専門家等で構成する「協議会」の組織化を検討する必要がある。

本市の空き家対策は、着手したばかりであることから、多くの先進事例を積極的に学び、本市の実情に合った政策を進めていく必要がある。

▶空き家の現地調査

**議会用語ピンポイント解説**

『所管事務調査』とは、議会の常任委員会が地方公共団体に関する事務について自主的に調査研究することを言います。この調査は、地域課題の解決につなげるなどの目的があり調査結果を議会内で共有し、その後の議会活動に役立てることができます。市議会では、議会報告会等で寄せられた皆様のご意見を参考に、委員会ごとに「所管事務調査」のテーマを設定しています。